

発掘調査と遺物に関するコメント

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

上席専門員 菊池 実

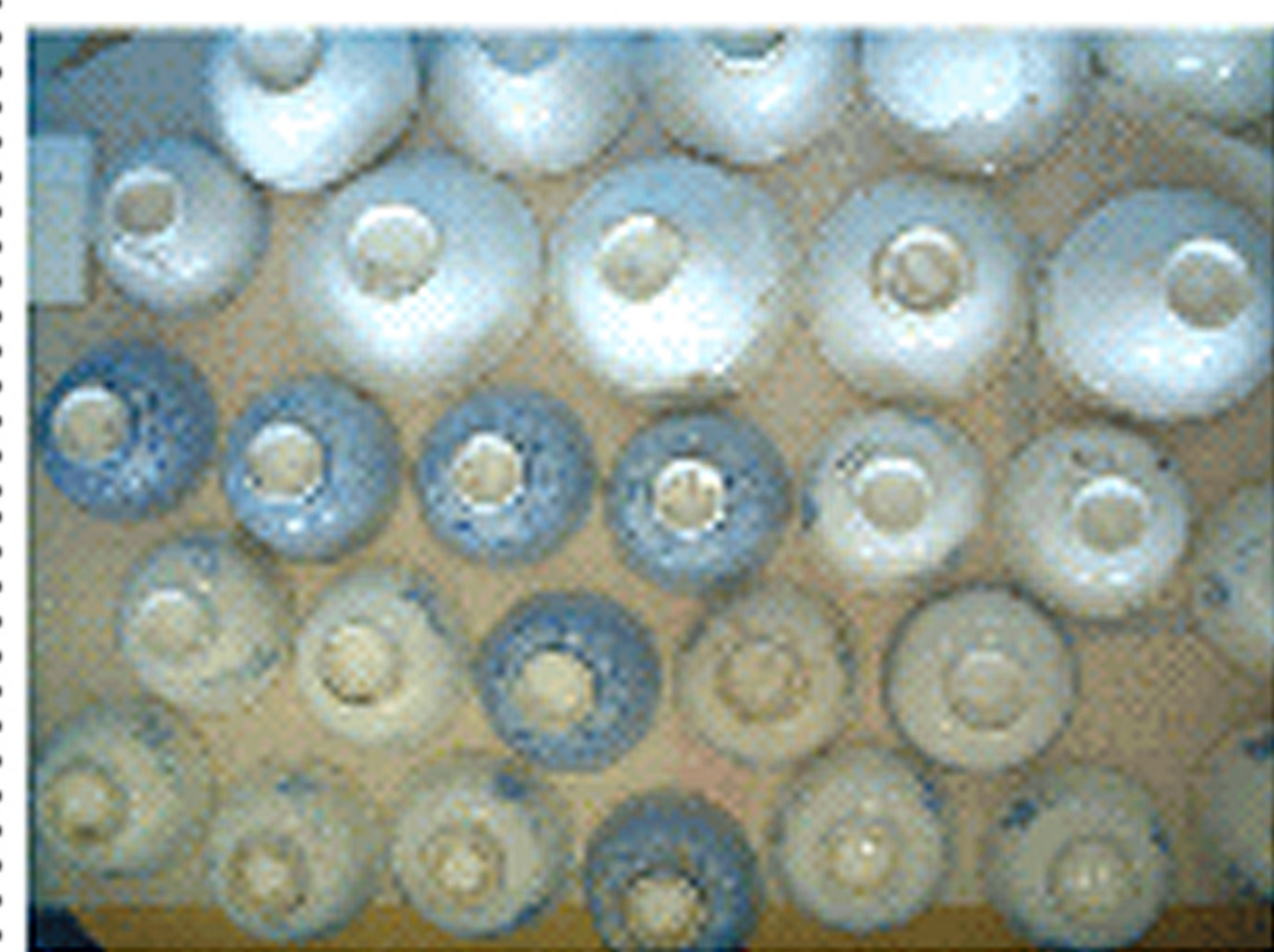
調査現場の見学から

- ・ 2011年5月30日午後4時からの発掘現場見学会に参加。
- ・ この時点で現場はすでに調査の最終段階となっていた。
- ・ 陸軍軍医学校時代の地表面（現地表面ではない）における遺構の検出状況を確認することはできなかった。
- ・ 最初に行われた第1試掘坑の地下1メートルあたりから建物のコンクリート基礎が検出されたが、その周囲からは当時の関連する基礎以外の遺構や遺物の検出はどうなっていたのであろうか。

調査現場の見学から

- ・ 2011年5月30日午後4時からの発掘現場見学会に参加。
- ・ この時点で現場はすでに調査の最終段階となっていた。
- ・ 陸軍軍医学校時代の地表面（現地表面ではない）における遺構の検出状況を確認することはできなかった。
- ・ 最初に行われた第1試掘坑の地下1メートルあたりから建物のコンクリート基礎が検出されたが、その周囲からは当時の関連する基礎以外の遺構や遺物の検出はどうなっていたのであろうか。

国民食器とは



岐阜県陶磁資料館所蔵(2007年調査、約200点所蔵)

国民食器登場の背景

- 日中戦争の拡大にともなって国内では物資の不足、政府は物価の高騰を抑えるため、1939(昭和14)、「価格等統制令」を公布し、物価を同年9月18日の価格に等付けし、価格統制(公定価格制度の導入)に踏み切った。
- 「公定価格」の制定に伴い、1941(昭和16)年2月以降、生産品を「公定価格」に即応させるため、「碗類」「茶碗」「湯呑」「皿類」「丼類」の品種について分類基準を設け統制を開始した。この直後に『標示記号』が作成され、これによって「表印番号」が付けられた陶磁器が出現する。
- 『標示記号』は陶磁器の生産品種の制限と生産数量の調整を目的に作成された。
- 陸軍食器—アルマイト製品に代わる金属代用品。消費地でも一般家庭には流通しない品種である。国民食器、国民茶碗と軍茶碗とに大別される。

国民食器（民需用）と陸海軍食器（軍需用）



岐阜県陶磁資料館（2007年調査、約300点所収）

国民食器の特徴と生産者別標示記号

- ・ 高台内に表記された「表印番号」-「岐〇〇〇」
- ・ 番号の機能していた時期、1941(昭和16)年3月～、敗戦とともに『標示記号』は消滅。
- ・ 一般家庭では、低廉な陶磁器として普及する一方で、口縁直下に緑色の二本線に軍需工場・病院・民間会社等の社章や徽章を表出した特注の製品も出現する。当該陶磁器には、軍用食器として転用されることが多い。「国民食器」の基本的な性格は、民需から軍需へと即時転用可能な製品として作られていた。
- ・ 防衛食器(缶詰の代用品として考案された。戦地兵隊向きの食糧輸送容器、国内における戦時貯蔵食糧容器)1943(昭和18)年末から生産。

高台内の裏印番号

- 岐阜県陶磁器工業組合連合会は、「岐」の定まった書体の文字に番号をつける。そして連合会傘下の西南部陶磁器工業組合は「岐1」から291会員、土岐津「岐271」から357会員、妻木「岐641」から85会員、下石「岐726」から180会員、駄知「岐906」から121会員、瑞浪「岐1036」から42会員、恵那「岐1086」から79会員で統制番号は1210番までのうち欠番があり1178品種の番号を使用した。
- このほかには瀬戸(瀬・セ)、常滑(常)、相馬(相)、肥前(肥)、波佐見(波)、有田(有)、萬古(万)などがある。

戸山5号宿舎跡出土の陸軍食器

- 6号トレンチ東側ゴミ穴から出土した国民食器(写真提供は指崎氏)とは、軍用に即時転用可能なものを統一規格による大量生産で民間に流通させると同時に、戦時統制の精神を徹底させる道具でもあった。国策に応じた産品とされたために、多くの窯業工場で作られている。軍用に転用された陸軍徽章の女印が描かれた陸軍食器(6区からの出土遺物には女印の中に「醫校」と書かれているものもある)。



戸山5号宿舎跡出土の陸軍食器



使用時期は非常に限定される(1941年から戦後の一時期まで?)

軍需用にはその所属する組織の
マーク



名古屋市見晴台考古資料館の発掘遺物

「岐」と「瀬」の番号

名古屋城三の丸遺跡

(陸軍第3師団の建物跡や防空壕跡)



遺跡調査(2007年)



出土遺物(陸軍食器など)

沖縄県那覇市真嘉比の戦没者遺骨 の発掘



丘の頂上の西側で発見された日本海軍の遺骨、70センチ×90センチの輸血袋のため傾斜することが出来ず座る様な状況になっている、陣内に出血用の使用済み輸血袋が出土、右側下に出血用の四角缶の裏面、左足下に出血下見袋の底、



西軍野戦地の境内出土遺骨、4人がうつ伏せで出土、左側の方向は右腕が半屈に足もと方向に曲がっている、右側の方向は左足股骨の骨折が物り右足趾物にする様子下に空箱している、4人も身体の高部が手塚塚でなく地溝溝が付着、また土骨に食い込んでいる、

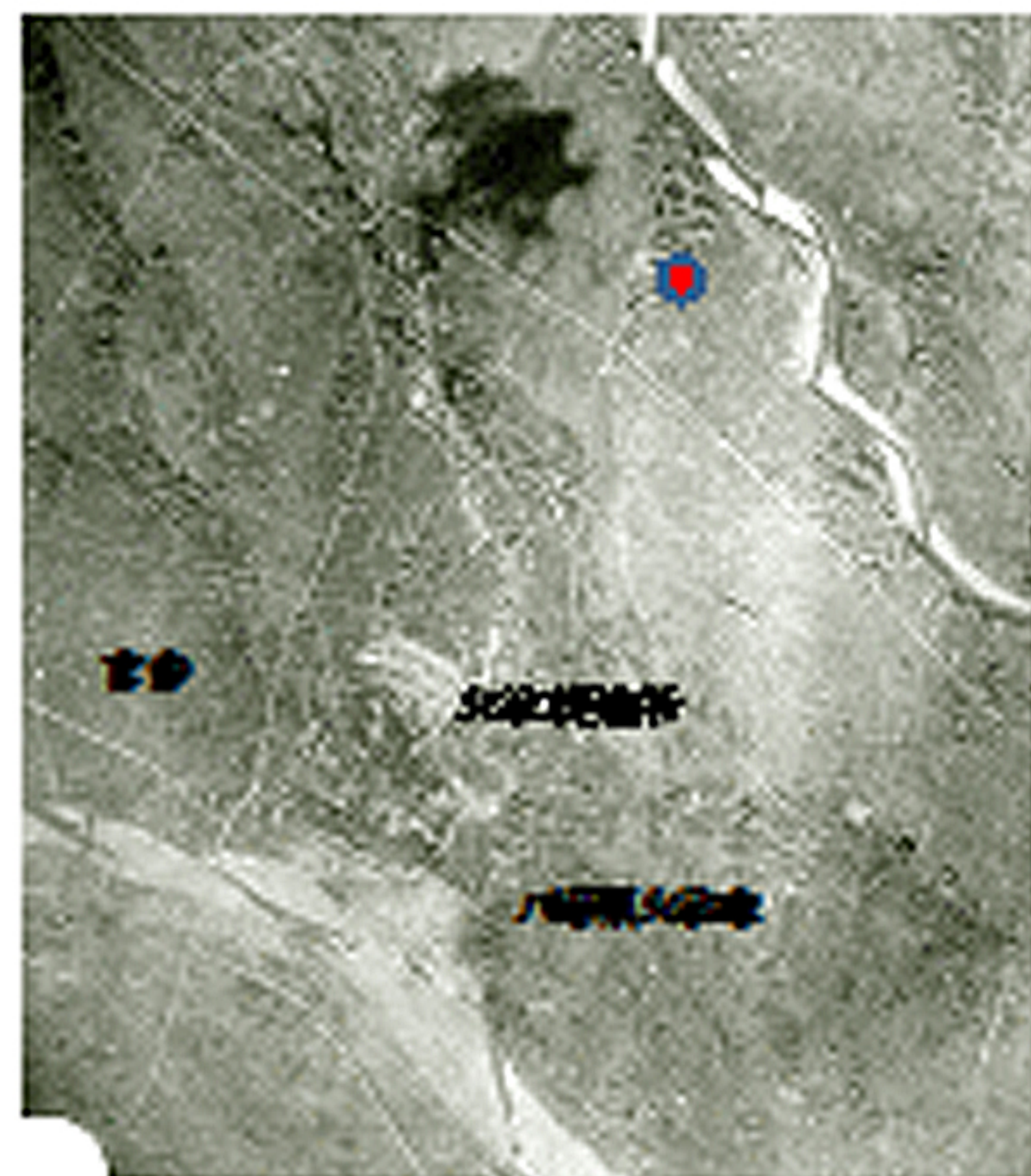
遺物の廃棄

- ・ 廃棄の時期は戦中ではなくて、戦後の比較的早い時期と思われる。
- ・ 調査報告書ではこれらの遺物実測図や写真の掲載をお願いしたいと思う。

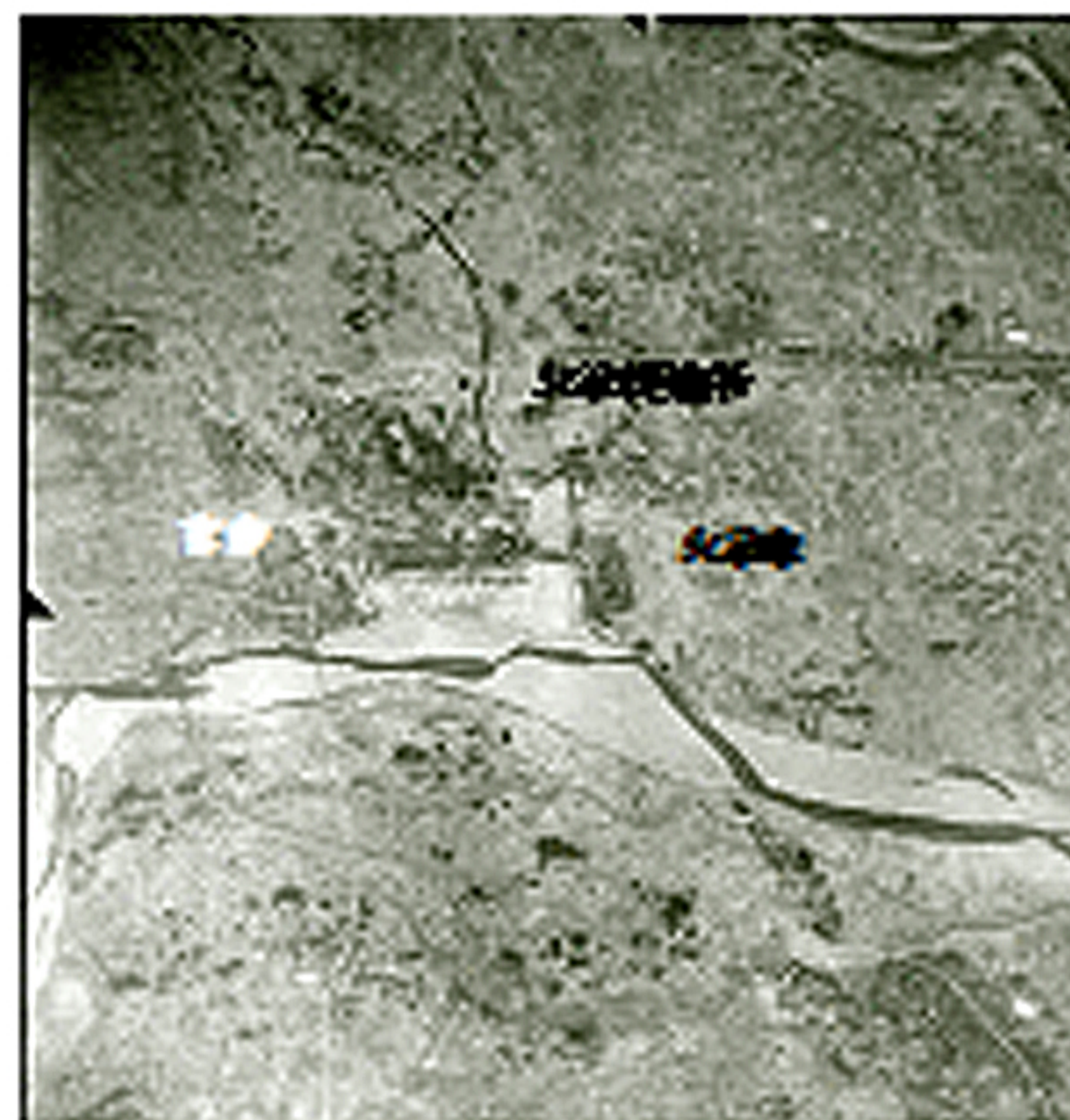
遺物の廃棄

- ・ 廃棄の時期は戦中ではなくて、戦後の比較的早い時期と思われる。
- ・ 調査報告書ではこれらの遺物実測図や写真の掲載をお願いしたいと思う。

ご参考までに一陸軍岩倉火薬製造所の空中写真



1940(昭和15)年2月16日撮影



1942(昭和17)年3月23日撮影

米軍第3写真偵察戰隊報告書

FORM 1018 (10 FEBRUARY 1945)

REVISIONS

| | |
|---|----------|
| 1 | Original |
| 2 | Revised |
| 3 | Revised |

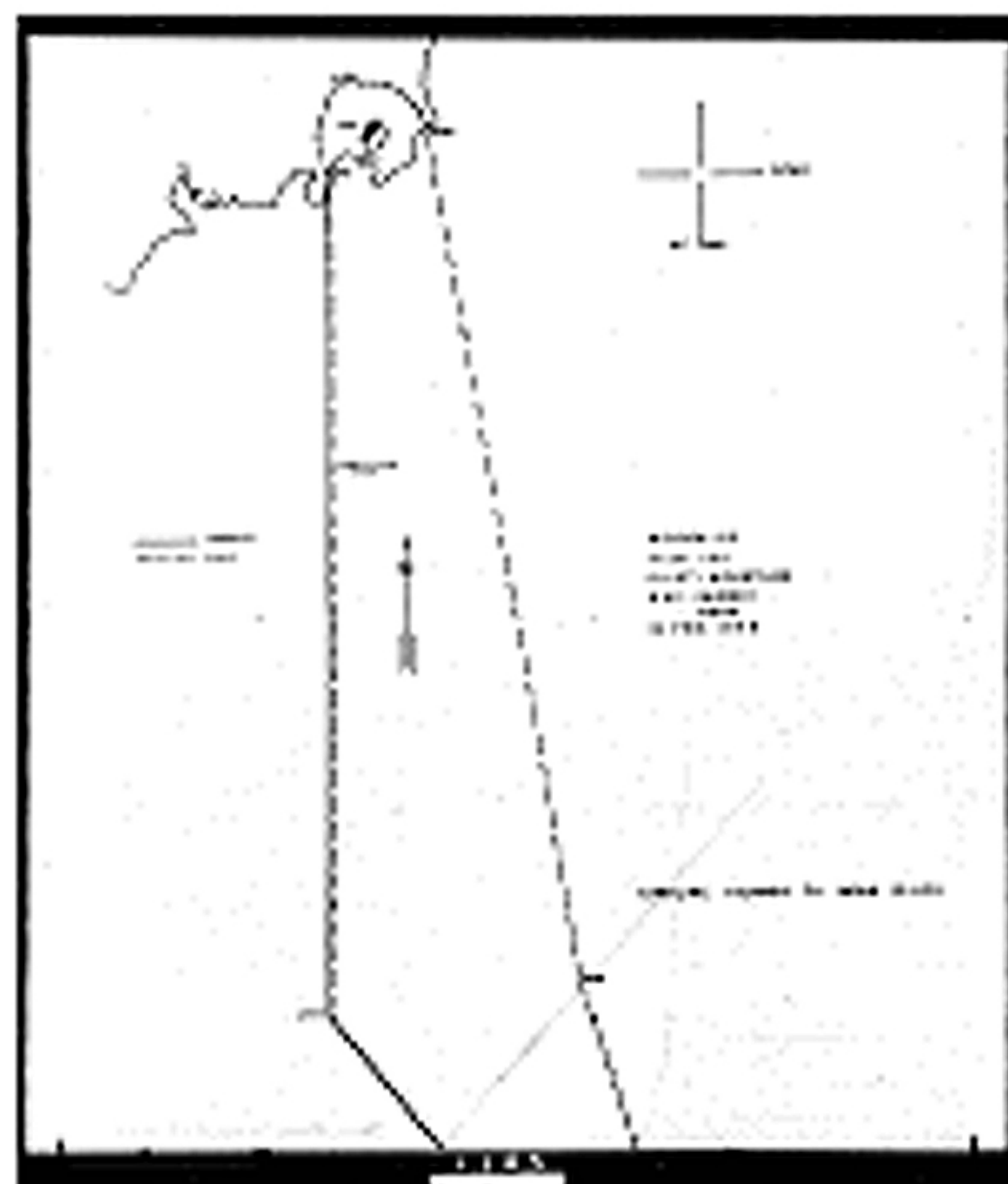
COMBAT MISSION

NO. 45
1945

Performed on
~~10 FEB 1945~~
By Agency of
1st Photo Recon Squadron
1st Photo Recon Group
1st Photo Recon Wing
1st Photo Recon Force
1st Photo Recon Command

2nd PHOTO RECON SQUADRON
APO 234
HONOLULU

10 FEB 1945



米軍B29(F-13)による偵察写真



1945 (昭和20)年2月12日撮影